

商品市況展望

平成 25 年 1 月 27 日記

貴金属・石油・ゴムを上場している東京工業品取引所は、各取引員別の売買や取組を非公開にしておき、情報開示は以下のような「カテゴリ別取組高7分類」を週一で出しているだけである。以下は、1/23 現在の「金のカテゴリ別取組高7分類」である。

取引日	市場取引参加者 自己玉		受託取引参加者 自己玉		当業者 委託玉		非当業者 委託玉		市場取引参加者 委託玉		受託取引参加者 委託玉		一般・準取引参加者 委託玉		期
	売	買	売	買	売	買	売	買	売	買	売	買	売	買	
2013年01月23日	40,519 (+6,580)	15,229 (+2,610)	17,098 (+6,796)	17,319 (+6,754)	59 (+0)	20 (+0)	84,535 (+832)	107,022 (+4,878)	1,075 (+23)	1,188 (-121)	- (+0)	- (+0)	686 (-255)	3,194 (-145)	4,

一方の東京穀物商品取引所は毎日、各取引員の売買を公開し、取組高も公開している。以下は今週末 1/25 の大豆の「取引参加者別取組高表」だ。

2013 年 1 月 25 日 一般大豆先物

限月	13/02		13/04		13/06		13/08		13/10		13/12		合計		差引		限月
	売	買	売	買	売	買	売	買	売	買	売	買	売	買	売	買	
会員名																	会員名
エース	4	19	165	96	492	422	71	106	298	553	370	119	1400	1315	85		エース
岡地	272	128	67	235	568	196	547	217	208	139	248	173	1910	1088	822		岡地
岡藤	13	52	92	194	63	608	114	424	420	290	368	178	1070	1746	676		岡藤
HSF																	HSF
サンワ	4	2	2		94	116	202	201	235	228	108	108	645	655	10		サンワ
新日本			4	3		3		1	5	2		27	9	36	27		新日本
セントラル	16		135	2	148	60	287	8	169	12	74	47	829	129	700		セントラル
アルフ			20		50	5	100		50			201	220	206	14		アルフ
NWEG	483	456	13	37		280		388	268	335	1159	2324	1923	3820	1897		NWEG
第一	8	8	6		22	31	15	27	143	65	63	113	257	244	13		第一
日産	43	17	191	21	284	159	106	302	216	199	239	215	1079	913	166		日産
フジト	3	2	15	8	50	42	31	7	41	10	20	36	160	105	55		フジト
北辰物	6	6	12	7	20	27	4	15	2	6	6	47	50	108	58		北辰物
岡安	11	26	267	211	660	786	84	42	80	40	23	80	1125	1185	60		岡安
KOYO 証券			6		2	1	1	3	1	11		3	10	18	8		KOYO 証券

C T	1	5	143	31	30	78	129	63	87	245	90	418	484	66	C T	
山前															山前	
共和	8	8	36	37	103	72	237	249	32	19	3	14	419	399	20	共和
豊	221	368	382	435	908	585	834	414	399	726	1144	483	3888	3011	877	豊
ドットコモディティ	9	5	63	47	175	247	170	248	200	110	500	310	1117	967	150	ドットコモディティ
アスト									2			2	2	2		アスト
MBK								100						100	100	MBK
代行																代行
合計	1102		1476		3670		2881		2832		4570		16531		2902	合計

シカゴ大豆の 55 万枚ほどの取組高に比べ、東京大豆の取組高はみっともないくらい少ないわけだが、問題はそんな事じゃない。(それも大問題だが、その話はまた次回に)

週一での「カテゴリ別取組高 7 分類」では、誰が買っているのか、誰が売っているのか、まさにさっぱりわからんわけだが、これだと「判る人には、現在の内部要因がどうなっているのが推測出来る」わけである。

ところが 2 月からは、東京穀物商品取引所も東京工業品取引所に吸収合併されるため、上記のような表も非開示になると思われる。

そうなった場合、貴金属の場合は変なサヤになる事はまず無いし、石油の場合は受け渡しと言っても業者間だけだし、スポットとの裁定が効くから問題は少ないだろうが、穀物の場合は別だ。今のサヤを見ても判るとおり、実需の受け渡しによって、限月別に需給関係の変化が起きるし、何よりも策動が入った場合に「非開示」は、一般投機家にとって致命傷を与える危険がある。

いやいや、「私はチャート一本で相場を見ているから、内部要因なんて関係ないよ！」という人もいるかもしれない。

もちろん相場変動の基本は、需給関係である。またチャートは重要なツールである。しかし巨大資本は、時に需給やテクニカルを無視して買い上げたり、売り崩しをしたりする場合があるわけで、実際に過去何度もそういう相場はあったのだ。

内部要因の分析だけで儲かるとは全く考えていないが、需給やチャートだけではない相場になる危険性を察知するには、やはり「誰が買っているのか、誰が売っているのか」という判断の一助とする情報は重要であり、異常な相場に巻き込まれないためにも、情報開示は必要はずだ。

商品市場の参加者は、大別すれば 3 つ。一般投機家と商社とファンドだ。一般投機家をないがしろにして、市場が廃れるのは今を見れば判る事だ。

先物取引の大原則は、ヘッジ取引や現物市場も絡めて考えれば、必ずしもゼロサムゲームとは言えない面もあるが、市場の中だけで判断した場合は、1 枚の売りには必ず 1 枚の買いがあつての取組なわけで、誰かの儲けは誰かの損であり、まさにゼロサムゲームだ。

一般投機家は、そのゼロサムゲームの中でこそ、取引に参加しているわけだ。

そのゼロサムゲームの市場の中で、我々一般投機家が勝利を収めようとする場合、商社やファンドに勝てるかといえば、短期的には勝てる場合もあるだろうが、ずっと続けた場合はその情報量や資本力から考えても難しいのは、もう子供でもわかる事。竹槍持って、戦闘機には勝てないって事だ。

その有利な商社、ファンドが自分の手口を隠し、市場操作をしやすくするというのは、どう考えても納得の行かない話だ。

元々は、東京工業品取引所だって、日々の会員別手口や取組表を開示していた。それを開示しなくなったのは、ゴールドマン・サックスなどの外資の要求を飲んだからで、「グローバルな市場では開示なんてしてませんよ！」「グローバル取引になれば、市場参加者が増えますよ！」という甘言に乗ったからだ。その結果は、現状の通りだ。

そういう市場にした彼らは、自分のポジションを隠して、あわ良くば価格操作をして、一般投機家から更なるカネを巻き上げようと企んだわけだ。これは許される事じゃない。

一方で取引所は、「一般投資家の保護」を謳うが、それはすべて「取引会社の営業姿勢」などに矮小化し、本当に危険な「巨大資本による市場の蹂躪」には「非情報開示」で目をつぶっているわけだ。全く情けないかぎりだし、自分で自分の首を絞めているとしか言い様がない。

ともかく全市場、毎日、会員別取引高表、及び会員別取組高表を開示してもらいたい。そうでないと、危険が迫っているのかが全く一般投機家には判らない市場になってしまい、一般投機家が商社やファンドの餌になるだけになってしまうゆえに。

*その後、穀物相場に関しては、今までどおり今後1年程度は手口の公開をする事に決まりました。

〔貴金属〕

○東京金日足
…削除済み…

今週の金の値動き

	2月限(当限)	前日比	12月限(先限)	前日比
1月21日	¥4,871	-28	¥4,882	-26
1月22日	¥4,859	-12	¥4,871	-11
1月23日	¥4,805	-54	¥4,815	-56
1月24日	¥4,822	17	¥4,835	20
1月25日	¥4,864	42	¥4,874	39

金相場は、先週号においては『4,900円台まで上がって来た相場であるが、まだ天井は先であろう。まずは5,000円台、そして5,300円台を目指しているものと見ている。調整は入っても4,800円割れは困難と見ており、仮に大きく下げても4,600円以下はまだ無いだろうとの見方である』とコメントした。

今週の相場展開は、1/22には4,913円まで2円の高値更新を果たしたが、基本的に23日まで為替の円高調整で下落。安値は24日の4,800円ジャストであり、高値から100円ほどの調整安となったわけだ。

しかし週末には為替が88.05円(1/23)→90円台に再び乗せた事を受けて急騰に転じ、その後の夜間取引では4,895円の高値まで記録。ただし今のところ、4,900円台にはまだ乗せていない状況である。

先週号で「調整は入っても4,800円割れは困難」としたわけだが、安値はちょうど4,800円で止まったわけだ。

週末の為替は90.68円とまたこのところの安値を更新したが、NY市場では91.16円まで更に円安が進んでいる。

…中略…

しかしモルガン・スタンレーやゴールドマン・サックスなど、各社ともに今年の金の平均価格は1700ドル台後半に置いているわけで、平均というのだから高値では当然1800ドルオーバーを予測しているわけだ。

日々の為替の50銭～1円の上下の読みは難しいだろうし、またNY金の10～20ドルの変動など読みようもないわけだが、単純に中長期的に見て…

○1800ドル×100円÷31.1035=5,787円 までは上がる可能性がある、と考えるのに不都合があるだろうか？

短期的には、来週中に円安が93円台まで進むようなら、5,000円相場の出現となるだろう。円安にならずに調整するようなら、4,800円が下値抵抗線。割れた場合は4,700円を一瞬割り込む下げもあろうが、そこは絶好の買い場となるだろう。4,500円台とか、4,400円台とかは、天井を打たない限り当分無いだろう。

なお一代の動きは以下のとおり。

東京金一代の動き

	始値		高値		安値		現在値
2013年2月	¥4,654	2月27日	¥4,901	1月22日	¥3,885	6月4日	¥4,864
2013年4月	¥4,307	4月25日	¥4,904	1月22日	¥3,886	6月4日	¥4,864
2013年6月	¥4,023	6月27日	¥4,905	1月22日	¥3,940	7月24日	¥4,865
2013年8月	¥4,224	8月29日	¥4,906	1月22日	¥4,166	9月3日	¥4,869
2013年10月	¥4,404	10月29日	¥4,910	1月22日	¥4,330	11月6日	¥4,872
2013年12月	¥4,519	12月25日	¥4,913	1月22日	¥4,502	12月25日	¥4,874

1/22が一代高値の更新日となっているが、91円台半ばの円安なら簡単にこれは抜けるだろう。前述のとおり、93円台となれば5,000円相場の出現となるだろう。

○NY金日足

…削除済み…

週末1/25のNY市場は、前日比13.3ドル安の1656.6ドルでの終了。これは欧州銀行の資金返済が予想を上回り、欧州懸念が低下したためだ。

もっとも欧州が磐石なのかと言えれば疑問があり、…中略…

またチャートでは、仮にあと10ドル程度なら下げても「1/4の安値1626ドルを底とする逆三尊底形成」にしかならない。1626ドルを割れなければ、何の問題もない下げであろう。

CFTC発表の1/22現在のファンドのポジションは、…中略…

1/25現在でのETF残高は、…中略…

なおロイター通信が公表したアナリスト37人を対象に実施した1月の調査結果によると、2013年の金の平均価格見通しは1オンス=1775ドルで前年(1668ドル)比6.4%高と記録的高値水準となった。

ただ、金は12年間にわたり長期の強気相場が続いてきたが、今後の上昇は限定的なものとなり、伸び悩む可能性もあるとして、2014年予測はほぼ横ばいの1780ドルとなっている。

結論として当方の相場観は、今は円安だけでの上昇であるが、この円安はまだまだ進むだろうし、近いうちにNY金も上昇すれば歯止めが掛からなくなる。押し目買い一貫であろう。

○東京プラチナ日足

…削除済み…

今週のプラチナの値動き

	2月限(当限)	前日比	12月限(先限)	前日比
1月21日	¥4,825	-85	¥4,856	-90
1月22日	¥4,827	2	¥4,871	15
1月23日	¥4,792	-35	¥4,828	-43
1月24日	¥4,823	31	¥4,862	34
1月25日	¥4,905	82	¥4,947	85

プラチナ相場は、先週号においては『**アングロ・アメリカン・プラチナム社は、今後3ヶ月を掛けて同社の鉱山閉鎖提案に対し、南ア当局との協議を行うと発表したため、プラチナ独自の買い材料は一巡となったため、一度は押すだろう。しかし調整安完了後は、再び高値追いとなるだろう**』とコメントした。

今週の相場展開は、週明け（とは言っても夜間取引中に高値更新～下落だが）に一代高値を記録した後に急落。そのまま23日まで為替の調整もあって値を消した。

だが週末はまた円安で急反騰となり、相場が91円台まで円安進行となった夜間取引では**4,997円と5,000円台間近まで上昇している**。

300円とは言わぬが、せめて200円は押して欲しかったが、「押し目待ちに押し目無し」という相場格言通りに**4,951円→4,814円まで137円の押しで完了。すでに高値更新中だ**。

単純に押しの倍返しなら…中略…

円安は金との共通の強材料として、プラチナ独自の材料としては、

○**アングロ・アメリカン・プラチナムは、南アの一部鉱山の操業縮小などで、年間40万オンス（約12.4トン、世界の白金総生産量の約7%に相当）を減産する方針。ただし3ヵ月間、南ア当局との協議を行う。**

○**同社の昨年**の違法ストによる減産は、30.6万オンス（約9.5トン）****

○**NY市場でのファンドの買い越しは、4万5,000枚超に拡大。**

○**タイ、インドネシアの新車販売台数は、それぞれ100万台を突破。**

…中略…

なお一代の動きは以下のとおり。全限一代高値の更新である。

東京プラチナー代の動き

き

	始値		高値		安値		現在値
2013年2月	¥4,535	2月27日	¥4,912	1月21日	¥3,468	7月24日	¥4,905
2013年4月	¥4,090	4月25日	¥4,926	1月21日	¥3,466	7月24日	¥4,924
2013年6月	¥3,681	6月27日	¥4,928	1月18日	¥3,460	7月24日	¥4,924
2013年8月	¥3,860	8月29日	¥4,935	1月21日	¥3,807	8月31日	¥4,934
2013年10月	¥3,998	10月29日	¥4,944	1月21日	¥3,933	10月30日	¥4,941
2013年12月	¥4,249	12月25日	¥4,951	1月21日	¥4,236	12月25日	¥4,947

先物は夜間取引で、4,997円とすでに高値更新した他、全限一代高値はすでに更新している。

○プラチナ－金価格差日足

…削除済み…

週末現在のサヤは、4,947 円（プラチナ）－4,874 円（金）＝73 円。

昨年是一時－550 円までプラチナが割安になったわけだが、完全にサヤは上ザヤに訂正され、なお拡大中である。

夜間取引では、プラチナ高の金安で更に拡大しているわけで、こうなるともうゼロ以下になるのも難しいのではあるまいか？

一般的にプラチナと金の価格差は、…中略…

金とのサヤ取りは、プラチナを2枚買って、金を1枚売れば良い。縮小すると思えば、逆にプラチナを2枚売って、金を1枚買えば良いわけだ。

結論として当方の相場観は、押し目買い一貫での対処で良いだろう。値頃の売りがすべて踏まされる相場になりそうな予感があり、場合によっては5,000円乗せからの大相場が始まる可能性もあると見る。

〔穀物〕

○東京コーン日足

…削除済み…

今週のコーンの値動き

	3月限(当限)	前日比	1月限(先限)	前日比
1月21日	¥30,700	200	¥26,660	-60
1月22日	¥31,200	500	¥26,570	-90
1月23日	¥30,890	-310	¥26,140	-430
1月24日	¥30,900	10	¥26,280	140
1月25日	¥30,780	-120	¥26,550	370

まずはコーンから…

先週号においては『シカゴ市場の大きな上げはないだろうが、東京市場は期近の玉締めと円安での上昇がまだ残っていそうだ。短期的には押し目買いであろう』とコメントした。

今週の相場展開は、26,890円(1/21)まで上昇の後、23日までは円安に一時ブレーキが掛かったため26,100円(1/24)まで790円の下落となった。しかしその後は、90円台に乗せる円安を追い風に反騰し、週末は大きく切り返した。

チャートでは、24,420円(11/14)が底、24,930円(12/21)が2番底という格好であり、今週も押し目は26,000円を割れなかったという事は、24,000円台はおろか、25,000円台も今は用済みという事なのだろう。

…中略…

一代の動きは以下のとおり。

東京コーン一代の動き

	始値		高値		安値		現在値
2013年3月	¥23,290	2月16日	¥31,200	1月22日	¥20,820	6月4日	¥30,780
2013年5月	¥23,250	4月16日	¥33,750	1月22日	¥21,040	6月4日	¥31,890
2013年7月	¥21,550	6月18日	¥31,710	1月22日	¥21,490	6月18日	¥30,710
2013年9月	¥28,500	8月16日	¥29,430	8月23日	¥25,510	10月1日	¥27,950
2013年11月	¥25,600	10月16日	¥26,850	1月21日	¥24,420	11月14日	¥26,690
2014年1月	¥25,700	12月17日	¥26,890	1月21日	¥24,930	12月21日	¥26,650

今週も9月限を除いては、一代高値の更新である。ただし5月限、7月限は高値から先物以上に大きく押したが、これは21日・22日に○○の手仕舞い売りが出たためだろう。

…中略…

○シカゴコーン日足

…削除済み…

週末1/25のシカゴ市場は、3月限で3.50セント安の724.25セントでの終了。12月限では1.00セント安の584.25セントである。

相変わらずの逆ザヤ相場であり、シカゴは一目均衡表の雲の上に出られない戻り売り相場が続

いている。

また CFTC 発表の 1/22 現在のファンドのポジションは、…中略…

結論として当方の相場観は、円安以外の買い材料はないため、急騰相場はないだろうが、緩やかな上昇トレンドはもうしばらく続きそうだ。押し目買いでの対処が良いだろう。

○東京大豆日足

…削除済み…

今週の大豆の値動き

	2月限(当限)	前日比	12月限(先限)	前日比
1月21日	¥56,800	0	¥50,690	250
1月22日	¥56,750	-50	¥50,440	-250
1月23日	¥56,850	100	¥50,710	270
1月24日	¥56,620	-230	¥50,680	-30
1月25日	¥57,000	380	¥51,500	820

続いて一般大豆です…

先週号においては『東京市場は円安の追い風もあり、一代高値の更新を果たす限月も続出するなど弱くないが、シカゴはまだ戻り売りの下げトレンドにある。よって、逆張りの相場展開がまだ続くのだろうと見る』とコメントした。

今週の相場展開は、週末には90円台に乗せる円安を受け、51,600円(1/25)の高値まで上昇。当限を除いて今週も一代高値の更新となり、ちょっと相場に勢いがついて来た情勢である。

大豆自体の材料としては、アルゼンチンが干ばつの影響で5,500万トン→5,400万トンへ100万トンの生産高の下方修正になったのが好感されている。しかし冷静に見れば、昨年の4,010万トンに比べればまだ圧倒的に多く、過去最高の5,450万トンにつぐ史上2番目の豊作である事には変わらない。(干ばつが続けば、もう少し下方修正されるかもしれないが)

またブラジルは天候懸念もなく、史上最大の生産高となる事は確実視されており、また今年の米作付面積の増加も確実視されている。

よって、所詮は…中略…

なお一代の動きは以下のとおり。

東京一般大豆一代の動き

	始値		高値		安値		現在値
2013年2月	¥41,900	2月16日	¥60,000	7月23日	¥41,050	2月16日	¥57,000
2013年4月	¥45,350	4月16日	¥57,480	1月21日	¥41,750	6月4日	¥57,000
2013年6月	¥44,700	6月18日	¥53,230	1月25日	¥44,400	6月18日	¥53,230
2013年8月	¥48,020	8月16日	¥52,900	1月25日	¥47,500	11月13日	¥52,690
2013年10月	¥47,220	10月16日	¥52,410	1月25日	¥46,920	10月16日	¥52,300
2013年12月	¥50,680	12月17日	¥51,600	1月25日	¥48,450	1月9日	¥51,500

○シカゴ大豆日足

…削除済み…

週末1/25のシカゴ市場は、3月限で5.75セント高の1441.00セント。11月限は2.75セント安の1303.00セント。

相変わらず旧穀、新穀の逆ザヤ相場であり、むしろ逆ザヤは拡大している。

チャートでは、国内相場は一目均衡表の雲の上での推移であるが、シカゴのチャートはずっと一目均衡表の下での推移であり、つまりは戻り売りを暗示しているチャートだ。

しかも新穀はこのチャートよりも、更に安く 1351.50 セント (1/11) の底値よりも下に居る状態である。

そう考えるとやはり、無理に円安材料だけで買い仕掛けに行くよりは、どこまで上がるかをしっかり見定めて、天井で売りを掛けたいと思うのが当方の考え方だ。

…中略…

なお CFTC 発表の 1/22 現在のファンドのポジションは、…中略…

結論として当方の相場観は、円安を追い風に一段高を演じる可能性は高いと考えるものの、大豆自体には買い材料があるわけではないので、この上昇相場に付いてゆくは大した利にはならないだろう。むしろ天井まで買い上げてもらったら、そこから売りで入る考えで待つのが良いのでは？

[ゴム]

○東京ゴム日足
…削除済み…

今週のゴムの値動き

	1月限(当限)	前日比	6月限(先限)	前日比
1月21日	297.3	0.7	311.6	-4.7
1月22日	295.2	-2.1	311.3	-0.3
1月23日	292.5	-2.7	308.3	-3.0
1月24日	290.1	-2.4	307.3	-1.0
1月25日	295.1	5.0	311.6	4.3

先週号においては『321円を超えることが出来るか、逆に300円を割り込む事が出来るかに注目だ。買い方の主力はファンドゆえ、相場は相場に聞けでチャート次第の動きになるだろうと予測する』とコメントした。

今週の相場展開は、310円を挟んでのもみ合いの展開。

チャートでは、321.0円(1/11)をトップとしてのもみ合い状態となっているわけだが、ここで崩れて300円を割り込めば三尊天井の完成であるし、逆に321.0円を抜ければこれが中段揉み合いだったという事で、また新たな上昇相場のステージに入ると読める。

どちらになるのかは、まさに神のみぞ知る話であるが、敢えて可能性として言うならば、まだ後者の可能性の方が高いのではないかと考えている。

というのも、円安はまだ続くと考えている事と、270円台から買い始めたファンドは先物への乗り換えを敢行するはずであり、週明けから7月限が発会して、また高値追いする可能性があるのでは?と考えるからである。

もちろん、おそらく310円台という高値で発会する7月限は、…中略…

なお一代の動きは以下のとおり。

東京ゴム一代の動き

	始値		高値		安値		現在値
2013年1月	230.2	7月26日	306.3	1月11日	205.6	8月14日	295.1
2013年2月	230.0	8月26日	306.6	1月11日	216.4	8月31日	296.7
2013年3月	253.5	9月25日	310.1	1月11日	240.0	11月12日	300.7
2013年4月	262.1	10月26日	314.0	1月11日	241.8	11月12日	304.8
2013年5月	259.7	11月27日	317.0	1月11日	245.6	11月29日	308.8
2013年6月	286.0	12月21日	321.0	1月11日	283.8	12月21日	311.6

当先のサヤは、1月限295.1円(納会)～6月限311.6円と16.5円の順ザヤ。順ザヤは若干縮小である。

週末現在の輸入採算価格は、…中略…

国内営業倉庫在庫は、1/10 現在で 202 トン減の 6,934 トン。4 旬ぶりの減少である。

上海ゴム在庫は、…中略…

上海ゴム価格は、25,000 元台半ばでの動きである。

タイ、インドネシアで新車販売台数が初の 100 万台を突破するなど、東南アジアの経済は好調だ。欧州は悪く、米国や中国にも不安は残り、日本も円安&株高が進んでいるものの、本当の景気回復はまだこれからという中で、どうも悪いニュースばかりを気にする日本人だが、**ゴムがここまで上昇したのは、東南アジアの好調のおかげなのかも。**

だがゴム生産には支障はなく、在庫はタイ政府に 20 万トン、上海にも 10 万トンあるわけで、供給不安は無いというのも現実だ。

結論として当方の相場観は、320 円を超えるか、300 円を割り込むかで、相場の方向が決まりそう。放れた方に付くしかあるまい。

〔原油・石油製品〕

○NY 原油日足

…削除済み…

今週の原油の値動き

	1月限(当限)	前日比	6月限(先限)	前日比
1月21日	¥60,200	-200	¥59,630	-270
1月22日	¥60,250	50	¥59,710	80
1月23日	¥60,000	-250	¥58,960	-750
1月24日	¥60,250	250	¥59,740	780
1月25日	¥60,550	300	¥60,730	990

まずは原油から…

先週号においては『青天井の上げ相場に突入しており、こういう相場はかなり長い陰線が入らないと天井を打たないだろう。それ以外の陰線は一本しか入らないケースも多く（1/16の足など）、そういう場面は買い場となるだろう。方針は、値頃感無用の押し目買いで』とコメントした。

今週の相場展開は、NY原油は96.92ドル（1/23）まで上昇。週末1/25は、前日比0.07ドル安の95.88ドルでの終了である。

チャートは、階段を踏みしめて上るように、徐々に上がっている。…中略…

正直、米国の「シェール革命」で原油の需給は緩んでおり、NY原油がこういう強い相場になるとは思わなかった。

アラブの春～今回のアルジェリアの事件など、確かに中東リスクは高まっているものの、過去の相場を見ても多分にこういう材料は一過性であり、上げた分は冷やされるのが通例であるが、今の原油相場は急騰するでもなく、だから下げもないという状況だ。

そんな中、米資源情報会社プラッツは、中国の2012年12月の顕在石油需要が前年同月比7.7%増の4,476万トン（平均日量1,058万バレル）になったとの推計を発表。月間需要量としては11月に引き続き過去最高記録を更新した。

またIEA（国際エネルギー機関）も…中略…

一時はこれらの油種よりも20ドル以上割安だったNY原油だが、今はかなりサヤも縮小している。これは米国のパイプライントラブルで国内在庫が溜まっていたのが、復旧によって徐々に在庫解消が進むのではないかとの背景もあるものと思われる。

こうなると、「シェール革命」からの原油価格の下落というのは、原油相場が高すぎるだろうと皆が思うところまで舞い上がって、天井を付けた後の話なのかもしれない。シェールオイルを生産する石油メジャーだって、そりゃ高く売れるに越したことはないだろうし…。

なお1/22現在のファンドのポジションは、…中略…

○東京原油日足

…削除済み…

東京原油は、海外原油高&円安で、更に騰勢に拍車が掛かっている。週末には高値で 60,980 円 (1/25) まで上昇であり、6 万円を大きく突破した。

更にその後の夜間取引では、91 円台まで進んだ円安を受け、61,810 円まで値を飛ばしている。その他の限月は、62,000 円台である。

今週も一時的な為替の調整で、58,000 円台までの押しはあった。だがこれも単なる指数調整の下げであり、典型的な青天井の相場となっているわけだ。

こういう相場に理屈は要らぬ。付いてゆくしかないのが、相場の王道だ。

なお一代の動きは以下のとおり。

東京原油一代の動き

	始値		高値		安値		現在値
2013 年 1 月	¥48,890	8 月 1 日	¥60,600	1 月 18 日	¥48,420	8 月 1 日	¥60,550
2013 年 2 月	¥53,910	9 月 3 日	¥61,970	1 月 25 日	¥50,290	9 月 21 日	¥61,870
2013 年 3 月	¥52,040	10 月 1 日	¥61,780	1 月 25 日	¥50,610	11 月 12 日	¥61,640
2013 年 4 月	¥51,740	11 月 1 日	¥61,530	1 月 25 日	¥50,390	11 月 12 日	¥61,400
2013 年 5 月	¥54,860	12 月 3 日	¥61,220	1 月 25 日	¥52,370	12 月 11 日	¥60,990
2013 年 6 月	¥58,080	1 月 4 日	¥60,980	1 月 25 日	¥57,320	1 月 8 日	¥60,730

結論として当方の相場観は、1,000 円~2,000 円の調整安はいつあっても不思議ではないが、そういう場面は買いになるだろう。青天井の相場は、明確な目標値は判断のしようがないが、為替の円安の天井&NY 原由の 100 ドル超えがあるまでは、天井は付かないだろう。

○東京ガソリン日足

…削除済み…

今週のガソリンの値動き

	2月限(当限)	前日比	7月限(先限)	前日比
1月21日	¥72,800	-740	¥75,130	-390
1月22日	¥71,810	-990	¥75,090	-40
1月23日	¥70,400	-1410	¥74,110	-980
1月24日	¥71,010	610	¥74,450	340
1月25日	¥72,090	1080	¥75,440	990

続いてガソリンです…

先週号においては『荒い相場は続くと思われるので、突っ込み買いの吹き値売りがベターであろう。ただし基本的には、原油高&円安で天井はまだ先の話である』とコメントした。

今週の相場展開は、76,000円(1/21)まで上昇した後、2,000円ほどの調整安を演じたが、90円台に再び乗せた円安を受けて週末は急騰。更に夜間取引では、76,630円と高値更新中である。

結果的に今回も、為替の調整で2,000円ほど下げたところが買い場となり、すでに週末の夜間取引で高値更新である。

週明けは8月限が発会となるが、通常ならば7月限と比較して同ザヤ~若干の逆ザヤでの発会か。76,000円台での発会は、若干高すぎる気もせんでもないが、だからと言って売り相場への転換はまだ無いだろう。

…中略…

なお一代の推移は、以下のとおり。

東京ガソリン一代の動き

	始値		高値		安値		現在値
2013年2月	¥58,670	7月26日	¥73,870	1月21日	¥58,160	7月27日	¥72,090
2013年3月	¥64,510	8月27日	¥75,050	1月21日	¥61,020	9月21日	¥73,510
2013年4月	¥63,400	9月26日	¥76,550	1月21日	¥62,560	11月6日	¥75,590
2013年5月	¥65,180	10月26日	¥76,440	1月21日	¥62,490	11月6日	¥75,580
2013年6月	¥67,980	11月26日	¥76,210	1月21日	¥66,480	12月10日	¥75,520
2013年7月	¥69,810	12月26日	¥76,000	1月21日	¥69,640	12月26日	¥75,440

前述のとおり、3月限以降すべて夜間取引で一代高値の更新中だ。

1/25 現在の業者間転売価格は、…中略…

1/19 現在のガソリン在庫は、…中略…

結論として当方の相場観は、大元の原油相場が青天井の様相ゆえ、ガソリンも同様の押し目買いの展開が続くだろう。しかし中期的に見れば、買われすぎた場面は冷やされるはずで、今後は天狗ザヤが拡大する相場になるかもしれない。

○東京灯油日足

…削除済み…

今週の灯油の値動き

	2月限(当限)	前日比	7月限(先限)	前日比
1月21日	¥81,980	-480	¥71,680	-330
1月22日	¥81,020	-960	¥71,830	150
1月23日	¥79,880	-1140	¥71,140	-690
1月24日	¥80,200	320	¥71,810	670
1月25日	¥80,910	710	¥72,880	1070

最後に灯油です…

先週号においては『一段と在庫逼迫の状況に陥っており、これでは大幅逆ザヤで高値に位置する期近の下落は無いだろう。そうであれば、先物の下落もあまり考えられず、少なくとも春までは、押し目買い方針の継続しかないだろう』とコメントした。

今週の相場展開は、調整安は一時的なものにとどまり、週末は円安の追い風もあって **73,080円 (1/25)** と 73,000円台乗せ。更に夜間取引では、**74,520円の高値まで記録**している。

我が家でも灯油を買いに行くが、18リットル=1,300円台だった灯油は、すでに1,600円ほどまで上昇している。まさに灯油の上昇は、とどまるところを知らないという状況だ。

…中略…

足元の需給逼迫が改善されない限りは、天井決定～下落のトレンドにはなりづらいだろう。

週明けは8月限が発会するわけだが、これはおそらく同ザヤ～若干の順ザヤとなる可能性が強く、もしもそうなおかめザヤが形成されるようなら、更に下がりづらくなる可能性が高いだろう。

なお一代の推移は、以下のとおり。

東京灯油一代の動き

	始値		高値		安値		現在値
2013年2月	¥61,810	7月26日	¥82,910	1月18日	¥61,350	7月26日	¥80,910
2013年3月	¥67,500	8月27日	¥80,360	1月21日	¥64,080	11月6日	¥78,850
2013年4月	¥64,320	9月26日	¥76,050	1月21日	¥62,960	11月6日	¥75,410
2013年5月	¥64,410	10月26日	¥73,600	1月25日	¥62,530	11月6日	¥73,460
2013年6月	¥67,680	11月26日	¥73,100	1月25日	¥64,690	12月11日	¥72,900
2013年7月	¥68,440	12月26日	¥73,080	1月25日	¥68,040	12月26日	¥72,880

前述のとおり、先物だとすでに高値が **74,520円**まで出ている。

1/25 現在の業者間転売価格は、…中略…

1/19 現在の灯油在庫は、…中略…

結論として当方の相場観は、8月限発会が高すぎれば一時的な調整安はあるだろうが、足元の需給逼迫が改善されない限りは、押し目買い相場が続くだろう。また、その需給の改善は難しく思われるため、2月は一段高の青天井になる可能性が高いと考えている。

[為替]

○ドル/円相場日足

…削除済み…

このチャートでは 90.68 円がピークであるが、すでに NY 市場では **91.16 円を記録**して、更に円安は進んでいる。

90.25 円 (1/21) →88.06 円 (1/23) までの 2.19 円の押しの倍返しなら、目先はまず 92.44 円目標だ。いずれは 95 円、100 円と円安は進むだろう。

さて先週の調整時には、…中略…

そして現実には、週末の NY 市場では 91 円台まで円安が進んでいるわけで、更にソロス氏は以下のように発言。

日本銀行の政策が「本物」であることに起因しているとの見方を示す一方、『日本の当局が円相場をどこまで押し下げることができるかは、米国がどの程度まで容認する意向であるかによって制限されるだろう』と語った。

さらに『ユーロは上昇し、円は下落する機運がある』と述べ、『事態がどこまで進むかは分からないが、どちらの方向に向かっているかを指摘することはできる』と付け加えた。

要は、円安はまだ進むと言っているわけだ。今は、そういう状況である。

○ユーロ/円相場日足

…削除済み…

円安は、ユーロ/円でも週末には **121.29 円まで進み、NY 市場では 122.75 円まで記録**。8 月の 94 円台からは、すでに 28 円の円安となっているわけで、30%ほど円安が進んでいるわけだ。

…中略…

なお来週の主な経済指標の予定は、

28 日 (月) 通常国会召集、安倍首相の表明演説

29 日 (火) 2002 年下半期の日銀議事録公表

30 日 (水) スペイン GDP 速報、米 GDP 速報米 FOMC 政策金利

31 日 (木) 独失業者数・失業率、米新規失業保険申請件数 (1 月 26 日までの週)

1 日 (金) 日本雇用統計 (12 月)、ユーロ圏失業率 (12 月)、米雇用統計・ISM 製造業景況指数などである。

…中略…

○ユーロ/ドル相場日足

…削除済み…

1/14 以降、ユーロ/ドル相場は横ばいの状況である。だから NY 商品市場の動きも鈍いわけだ。

しかしユーロ/ドルも、**基本的にはドル安**である。だから米国は、今回の円安にそんなに文句を言わないのだろう。

このレポートは、私が個人的な判断で書いたものです。
内容の責任はすべて私に帰するものですが、取引に対する利益を保証するものではありません。
(当たり前ですが念のため)

ひげの中ちゃん相場情報

中田幸一郎

メールアドレス info@higenaka.com